

教職大学院

●教職大学院の特色

教職大学院(専門職学位課程)は、これまでの教育系大学院(修士課程)と比較して次のような特色をもつ。

- ①理論と実践を融合した教育内容・方法であること。
- ②事例研究、模擬授業、授業観察、ロールプレイング、フィールドワーク、双方向的・多方向的なディスカッションなど、実践的な指導法を用いること。そのために4割以上の実務家教員が必置とされていること。
- ③教育分野の高度専門職業人の養成に特化しているので、研究指導や修士論文は課されないこと。
- ④大学院の運営全般においてデマンドサイド(学校、教育委員会等)と連携すること。
- ⑤組織的なFDや外部評価、第三者評価など、普段の検証・改善システムを構築すること。

●教職採用における大学院在学者・進学者に対する特例

大学院在学や進学を理由に採用を辞退した者に対し、次年度以降の採用選考試験における特別選考の実施や、名簿登載期間の延長などの特例的な措置を講じている自治体は、教職大学院設置後増加している。

学校が抱える課題について実践を通じて学ぶ(例)

